

日本デザイン学会 支部企画

教育成果集

2021

日本デザイン学会 支部企画

教育成果集

2021

JSSD

目次

- 4 会津大学 短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース
宇都宮大学 共同教育学部 デザイン研究室
- 5 大阪工業大学 プロダクトデザイン研究室
川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科
ビジュアルコミュニケーションデザイン研究室, ホスピタルデザイン研究室
- 6 九州産業大学 建築都市工学部 住居・インテリア学科
- 7 九州大学 芸術工学部 ピクトグラム & サイン研究室
共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 グラフィックデザイン研究室
- 8 公立鳥取環境大学 経営学部 マーケティング&デザイン研究室
嵯峨美術大学 デザイン学科 グラフィックデザイン領域
- 9 相模女子大学 学芸学部 メディア情報学科
札幌市立大学 デザイン学部
インターラクシオンデザイン研究室, デザインプロセス研究室
- 10 滋賀県立大学 人間文化学部 生活デザイン学科
- 11 静岡理工科大学 情報デザイン学科 芸術工学研究室
芝浦工業大学 エモーショナルデザイン研究室
- 12 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
拓殖大学 工学部 デザイン学科
感性インタラクシオン研究室, コミュニティデザイン研究室,
室内設計研究室, シビックデザイン, ユーザエクスペリエンスデザイン研究室,
用品設計研究室
- 15 多摩美術大学大学院 美術研究科 染織文化特殊研究室
- 16 筑波技術大学 産業技術学部 産業情報学科 情報科学専攻
筑波大学 大学院 人間総合科学学術院 人間総合科学研究群デザイン学学位プログラム
- 17 東京学芸大学 環境・プロダクトデザイン研究室
東京造形大学 インダストリアルデザイン専攻領域
- 18 東京都立大学 システムデザイン学部 ネットワークデザインスタジオ
東洋英和女学院大学
- 19 常磐大学 人間科学部 コミュニケーション学科 メディア映像
常葉大学 造形学部 ビジュアルデザインコース
- 20 日本大学 芸術学部 デザイン学科
八戸工業大学 感性デザイン学部
- 21 前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科 プロダクトデザイン研究室
宮城大学 事業構想学群 価値創造デザイン学類
- 22 武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科
明星大学 デザイン学部 デザイン学科 感性デザイン学研究室
- 23 山口大学 教育学部 美術教育選修 木工芸・デザイン研究室
横浜美術大学 美術学部 美術・デザイン学科 プロダクトデザイン専攻

ご挨拶

日本デザイン学会 企画委員会では、支部企画「教育成果集 2021」を発行いたします。

教育成果のアーカイブづくりの端緒として、2018 年度よりスタートした「教育成果集」は、2018 年度は第 2 支部を対象に 26 作品（先生 29 名・学生 33 名）、2019 年度は全支部を対象に 42 作品（先生 47 名・学生 91 名）、2020 年度は 36 作品（先生 39 名・学生 78 名）の掲載となり、2021 年度は 40 作品（先生 43 名・学生 58 名）となりました。

日本デザイン学会の会員の多くが大学などの研究・教育機関に所属することからすると、本冊子の掲載数は決して多いとは言えず、また全国から出揃ったというものではありませんが、教育成果としての学生作品を発表する場としていただくと考えております。

作品の応募につきまして、本冊子へのご理解とご協力を賜りたく、よろしくお願ひ申し上げます。

JSSD 企画委員会（支部企画）委員長 平松早苗

本冊子の概要

応募の概要としては、

- 教育機関（大学院、大学、短大、各種専門学校、高校など機関は問いません）で指導された教育成果（卒業・修了研究または制作、あるいはそれらに類する成果）の中から 1 作品をご推薦
- 学会正会員 1 名につき 1 作品の応募
- 推薦した教育成果の概要を 400 字以内でご紹介
- 教育成果の全体像がわかる画像（300dpi）を 3 点提出
- なお、応募に際しては、先生（推薦者）が、所属先の規定を踏まえ、学生（著作者）や撮影者の紹介許可を得て提出のこと。後記「本冊子の著作権に関して」を参照としました。

本冊子の著作権に関して

(投稿者に向けた規定)

■著作権および著作者人格権の取扱について

(作品の著作権および著作者人格権)

教育成果集に掲載された作品の著作権は原則として著作者に帰属する。投稿者は教育成果集への投稿にあたり、教育成果集としての掲載またはこの広報を目的とした内容に限り、当学会による著作物の複製、公衆送信、展示、頒布、翻案の無償行使について著作者より許諾を得るものとする。また、上記行使に関して当学会または当学会が指定する第三者に対して著作者人格権を行使しないことについても著作者より許諾を得るものとする。

なお、上記について投稿者または著作者と第三者間において生じた紛争に関して当学会はその一切の責任を負わない。

(教育成果集の著作権および著作者人格権)

教育成果集に掲載される作品部分以外の著作権はすべて当学会に帰属するものとし、この部分について著作者は当学会に対して著作者人格権を行使しないものとする。

■著作者または投稿者の責に帰す事項

教育成果集に掲載した内容に関する著作権または意匠権等の知的財産権について生じた問題の責任は著作者が負うものとし、当学会はその一切の責任を負わない。

(公開時の規定)

■著作物の権利について

本成果集に掲載された作品の著作権および著作者人格権は著作者本人に帰属します。著作者本人の許可なく（一部あるいは全部を問わず）これらを転載、複製等、著作権を侵害する一切の行為を禁じます。

(その他注意事項)

■特許法または意匠法に関する注意事項

教育成果集への掲載は特許（実用新案を含む）または意匠における新規性の喪失行為にあたります。ただし、掲載日から1年以内であれば所定の手続きを経て新規性喪失の例外規定の適用を受けることが出来ます。投稿者は投稿にあたり、著作者に対して特許または意匠の出願予定について確認するとともに、出願を予定している場合は、新規性喪失の例外規定について周知および対処の指導をお願いします。

また、新規性喪失の例外規定の適用を受けようとする場合であっても、第三者が同じ発明について先に出願または公開していた場合、これに対抗することはできませんので、この点についても注意するようお願いします。

教育機関：会津大学 短期大学部 産業情報学科
 研究室：デザイン情報コース 高橋研究室（グラフィック分野）
 指導教員：高橋 延昌
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：柳津の駅から町を歩こうプロジェクト
 学生氏名：天童 萌々美（ゼミ長）・遠藤 すずみ・
 丹治 帆乃香・渡部 鈴賀（短大2年）

福島県会津地方において、柳津町や JR 東日本が中心に取り組んでいる会津柳津駅利活用検討会議メンバーと連携し、駅を起点とした新たなウォークブルシステムの提案、実証実験などもおこなった。

柳津町は典型的な門前町であり、中心となる福満虚空蔵菩薩は丑年と寅年生まれの守り本尊であることから、柳津町は「うし・とら」がシンボリックとなっている。そのことから、「うし・とら」の形に沿って町の主要拠点を巡るルートを新たに開発し、巡るためのポスターやマップなどをデザイン制作した。また、巡る楽しさとして独自にフォトスポットを設定し、SNS や名所と連携した観光案内システムを提案した。

また、口コミやリピーターによる話題性や新たな商品開発を目指し、町の銘菓「粟（あわ）饅頭」と、町のシンボリック「うし・とら」をコラボレーションする企画もおこなった。結果として、学生が包装などをデザインした新商品「うしとら あわまんじゅう」が誕生し、実際に販売されることになった。



教育機関：宇都宮大学 共同教育学部
 研究室：デザイン研究室（建築・環境デザイン専攻）
 指導教員：梶原 良成
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：COMMUNITY PARK - 栃木県鹿沼市
 北犬飼地区コミュニティセンター移設計画 -
 学生氏名：石川 雅大（学部4年）

地方都市スプロールにおける、工業団地、農地、住宅地が混在して広がる地域は、コミュニティの形成に様々な問題を抱えている。そのような地域において実質的な役割を果たす地区コミュニティセンターを構想することを目指した。

まず、戦後、公民館と呼ばれる社会教育を旨とした地域交流施設から地域コミュニティセンターなどと呼ばれる施設に移行した経緯や使われ方、及びこの地域の文化的特性や周辺環境・住民の構成などを調査を行った。当初は地域住民の交流を目的として整備された施設であるが、多くが既存のグループに活動のスペースを提供することが主になっている現状が明らかになった。

どのような場のあり方があらゆる地域住民のコミュニティをより促すこととなるのか検討を重ね、それは公園のような場ではないかと行き着いた。そこでは人は散歩したり、スポーツしたり、ピクニックしたり、思い思いに過ごすことができる。屋内外が連続しながら多様な地形的状況が生み出され、利用者それぞれの活動のきっかけを作り出していくことを企図している。



教育機関：大阪工業大学
 研究室：プロダクトデザイン研究室
 指導教員：赤井 愛
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：私の巣
 ー生き物の棲家から発想を得た小さな空間
 学生氏名：藤本 実優（学部 4 年）

人は様々なモヤモヤを抱えて家に帰ってくる。そんなモヤモヤを溶かし、また外に出ていこうという気持ちを養う、ほっとできる時間と空間を作りたいと考えた。

キムネコウヨウジャクという鳥がつくるユニークな巣のかたちに魅了され、造形のヒントとした。鳥が身近な草木を巣づくりの材料とするのと同じく、我々人間にとって身近な工業製品として、建築資材のうち「バックアップ材」と言われる、軽く柔らかい発泡ポリエチレン素材を編み込んで制作している。巣の重量は約 2kg と軽く、中にこもって心身を休めるほかに、持ち運んだり、ヤドカリのようにかぶったまま移動したりすることも容易である。

当初は中にこもって過ごす時間を主たる用途と想定していたが、いざかぶって外に出かかってみると、見慣れた景色が違って見えたり、思いがけないコミュニケーションが生まれたり、新たな個々の空間の愉しみが広がっていく様子を体感することができた。

本作品は“内にこもる”と“外に出かける”という、相反する要素をつなぐ、自分だけの小さな空間としての『巣』の提案である。



教育機関：川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科
 研究室：ビジュアルコミュニケーションデザイン研究室
 指導教員：中村 俊介、青木 陸祐
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：音をみる
 ー聴覚障がいをめぐる新しい体験ー
 学生氏名：久富 亮（学部 4 年）

メディアの普及により広く認知されつつある「聴覚障がい」。「目に見えない」障がいであるが故にまだまだ周囲の十分な理解が得られないというのが現状である。

今回「聴覚障がい」をテーマに取り上げ、マンガを用いた「音をみる」という体験の提案に取り組んだ。全 4 話のストーリーを構想し、ストーリーの展開に沿って、「音をみる」ためのギミックを散りばめた。「みる」には、「視覚」だけでなく「能動的に体験する」という意味も含まれていると定義し、「聴覚障がい者を支援するツール」ではなく、「障がいに関係なく楽しんでもらえるツール」を目指し、「開く」「触る」「書く・描く」など、自ら動かす行為や動作を通して「音をみる」ことができるギミックを模索し、制作した。

作者はこの作品を通して、ひとりでも多くの方に楽しんでいただき、また聴覚障がい者と健常者をつなぐきっかけとなれればと考えている。



教育機関：川崎医療福祉大学 医療福祉デザイン学科
 研究室：ホスピタルデザイン研究室
 指導教員：森 絵美、平野 聖
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：親子療育おもちゃ「といぼっぷ」
 ～自閉スペクトラム症の子どものおもちゃ定期便～
 学生氏名：池内 佑衣（学部4年）

自閉スペクトラム症の子どもにとって就園前までの親との関わり方は、周りとの関係構築に影響する。

本研究では、親子がコミュニケーションをとりながら自然に療育に取り組むことを目的とした、おもちゃのサブスクリプションを提案した。

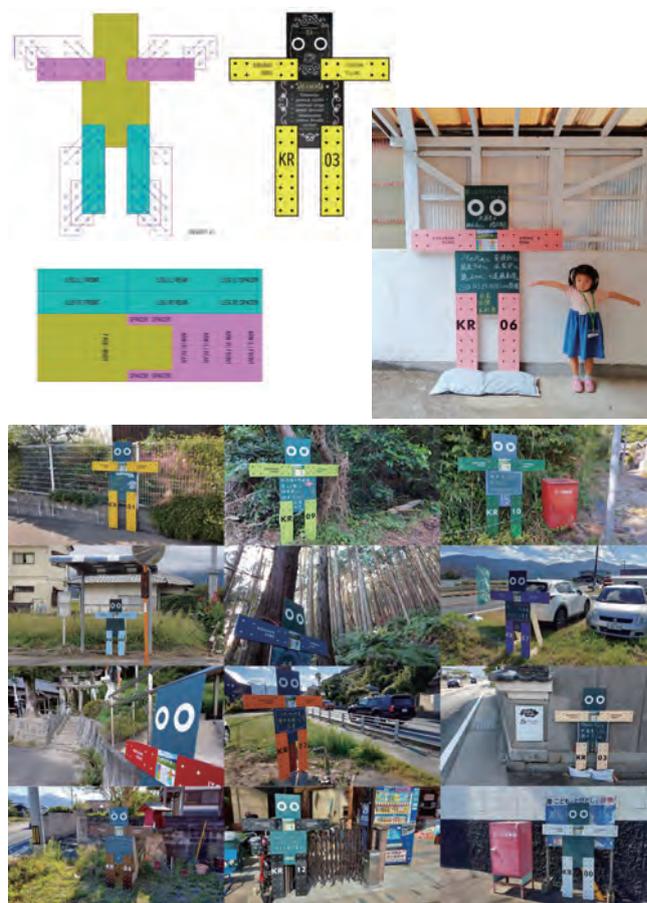
遊びの種類は、①感覚遊び、②模倣遊び、③規則遊び、④構成遊び、⑤受容遊び、⑥運動遊び、がある。これらを取り入れた、(1)音を楽しむたまご形のおもちゃ、(2)感触を楽しむ食べ物の形のおもちゃ、(3)バランス感覚を養うつまみ、(4)水の中で遊ぶパズル、(5)手先を使用する仕掛け絵本、(6)宝探しなどができるカード、を制作し二カ月に一度届く仕組みを考えた。保護者には、遊びながら子どもと関わる際のポイントを確認できるカードを同包し、専門家へつなぐ役割も担う。

就園前の子どもに使用してもらい、発達障害児支援施設の専門家らに話を伺った。療育に必要とされる要素とサブスクリプションの仕組みが高く評価された。また、子どもの興味関心を広げ、特性に合わせた遊びにつながる提案であるとの声を聞くことができた。



教育機関：九州産業大学
 研究室：建築都市工学部住居・インテリア学科
 指導教員：諫見 泰彦
 教育成果：地域貢献実践ゼミナール
 タイトル：ガイドボード戦隊「黒板ロボ」
 （糸島国際芸術祭の案内板）
 学生氏名：安倍 亜莉紗・池浦 成美・池田 成美・大坪 駿介・
 志方 豪樹・中野 裕也・藤原 和也・宮崎 健斗・
 吉岡 沙樹（学部4年）

2021年10月、福岡県糸島市で開催された糸島国際芸術祭のテーマは「身体尺度（ヒューマン・スケール）」であった。「黒板ロボ」は、サブロクバンのシナベニヤ1枚から無駄なく1体が切り出される、ロボット型黒板仕様の案内板である。サブロクバンは3尺×6尺（910mm×1820mm）の板である。畳一帖すなわち「大人ひとりが寝た時に必要なスペース」とされ、「身体尺度」とも合致する。会場エリアに点在する25のアートやパフォーマンスの鑑賞を支援し、回遊性の促しを目的としたガイドボード戦隊として、Yellow・Lime・Green・Aqua・Blue・Purple・Pink・Red・Orange・Cream・Brown・Black・Whiteの13体（色）を製作した。芸術祭出展のアーティストらからは、「黒板ロボ」のおかげで会場エリアの地理的な一体感がクリエイティブな形で見る事ができたとの謝意が伝えられた。



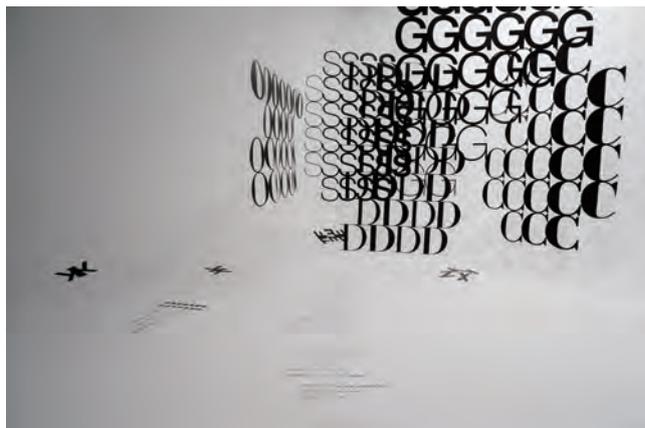
教育機関：九州大学 芸術工学部
 研究室：ピクトグラム&サイン研究室
 指導教員：工藤 真生
 教育成果：2021 年度卒業研究・制作
 タイトル：シュパヌクを援用した、
 形態美・造形的魅力を伝える展示
 学生氏名：金子 千聖（学部4年）

鑑賞者に厳選されたグラフィックエレメントを構成することで生じる造形的魅力を体感させること、造形における引き算的表現及びその魅力を見出すことを目的に、調査・制作・展示を行った。制作は、グラフィックの基本要素である文字に着目し、カンディンスキーが提唱した概念「シュパヌク」を援用した。はじめに、アルファベットの形状に感じる方向性のシュパヌクを明らかにした（n=20）。

調査結果から、①カーブがシュパヌクに影響するグラフィック要素であること、②微小なグラフィック要素の違いが全体のシュパヌクに影響を及ぼすことが明らかとなった。調査結果とシュパヌクの内容を踏まえて作品を制作した。作品1 リピテーションにより、図形がもつ方向性のシュパヌクが強化されるという仮説を立て、文字に応用、構成した。作品2 ユニット構成により文字を模様化し、書体による印象の違いを表現した。作品3 カーブを強調しシュパヌクの視覚化を試みた。



展示会場全体：サイズの拡大と立体化により、体感しやすい空間を目指した



作品1：文字のリピテーションと重なりにより、形態の緊張感を表現した

教育機関：共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科
 研究室：グラフィックデザイン研究室
 指導教員：田中 裕子
 教育成果：2021 年度卒業制作
 タイトル：「takenaka 100% 竹で作られた
 紙のお香ブランド」
 学生氏名：竹中 茉莉子（4年）

名前の「竹」から竹害に着目し、楽しく竹を消費することを目的に「100%竹でできた紙のお香ブランド」を考えました。「四季折々の竹と暮らす」をコンセプトに春夏秋冬の竹林をイメージしています。実際に竹から繊維を抽出し、手漉きで漉いて竹紙を制作しました。そして、竹の葉を型取り香り付けをしました。ブランドのロゴは竹のイラストと漢字の「中」を組み合わせ「竹中」と読めるデザインです。パッケージは、竹の稈を表現した形と質感、そして、四季の竹の色味の表現にもこだわりました。縦に並べるとインテリアとして飾ることができるようにし、集めたくなるデザインを目指しています。環境に優しく、竹に包まれるような気分を楽しんでもらえれば幸いです。



教育機関：公立鳥取環境大学 経営学部
 研究室：磯野マーケティング&デザイン研究室
 指導教員：磯野 誠
 教育成果：2021 年度 ブランディング
 タイトル：鳥取イラスト土産「とっとりメモリー」
 智頭シリーズ展開
 学生氏名：豊田 彩那・西川 真由・川口 和輝・土井 俊輔
 (学部3年)

当研究室は、2016 年度より、ブランディングの実践的学習と地域貢献をかねて、鳥取イラスト土産「とっとりメモリー」ブランドを立ち上げ、その元で絵はがき、ステッカー、はし置き、手ぬぐいをデザイン・開発・販売してきた。主力の絵はがきは年間約 1000 枚の販売に及ぶほどに成長した。2021 年度は新商品として、鳥取の中山間に位置する智頭町の活性化貢献のために、「智頭シリーズ」手ぬぐい、ステッカーを開発した。

開発はブランディングの基本理論に沿って行った。すなわち、ブランドプロミスの確認・智頭町とのデザインの方向性設定→ターゲット設定 (①観光客、②住民) →コンセプト設定 (智頭町の象徴をもとにした大人かわいいコレクション) →プロトタイプ試作・消費者調査・商品力の確認→制作→インスタ展開を経て、2022 年 3 月智頭町、鳥取市にて発売した。

売行きは今後ながら、住民から好評価・支持いただいている。



教育機関：嵯峨美術大学
 研究室：デザイン学科 グラフィックデザイン領域
 指導教員：大森 正夫
 教育成果：2021 年度卒業制作 (京都市京セラ美術館)
 京都市右京区まちづくり支援制度支援事業
 タイトル：ぎじんじゃプロジェクト
 ~神社が楽しく学べるコンテンツ~
 学生氏名：宮本 涼花 (学部4年)

京都市右京区には由緒ある神社が数多くあり、特異な祭礼に加え、さまざまなイベントが執り行われているにもかかわらず、観光客の大半は世界遺産に登録されている寺院などにお訪れ、若者の多くは初詣以外に神社を訪れることは少ない。そこで、関心の少ない若者たちが興味を持って訪れる機会づくりを目的に、右京区にある神社などのパワースポットを擬人化し、そのキャラクターを通して由緒やグッズや神職の思いなどを引き出し発信する若者向け Web コンテンツを作成した。

Web サイト『ぎじんじゃ』は現地で観光しながら使用しやすいようにスマホ対応のデザインと機能性に重点をおき、「ぎじんじゃ紹介」「イベントカレンダー」「ぎじんじゃ診断っ」「教えて！宮司さんっ」「物販紹介」など、文献には載らないリアルな声をインタビュー記事として掲載することで、親しみを持てるように工夫した。

また、Web サイトの広報とキャラクターのお披露目を兼ね、各神社との協力のもとに Web を活用した神社巡りのスタンプラリーイベントも行い、「右京区まちづくり支援事業」としての発表の場と評価も得た。



教育機関：相模女子大学 学芸学部
 研究室：メディア情報学科 塚本研究室
 指導教員：塚本 千晶
 教育成果：2021 年度 卒業研究・制作
 タイトル：「おすすめシネマのイラストブック」
 学生氏名：高橋 美羽 (学部 4 年)

当作品は B 5 版 42 ページで構成された映画の魅力
 を伝えるイラスト集である。作品の源泉は、作者自身
 が映画館のアルバイトで出会った多くの作品から、自
 身が真剣に気に入った映画を 10 編選び、それらの印
 象的なシーンをイラストとして描き溜めたものでは
 ある。実際には作者の「お気に入り (favorite)」は 10 篇
 に止まらないだろうが、卒業制作としてまとめる上で、
 量を絞ること、時代・ジャンルにとらわれないことな
 どの、多くの人々に伝わる工夫がなされている。特に
 情報誌風の冊子として仕上げるに当たり、各作品の紹
 介に一つひとつの作品の冒頭にファッションを中心と
 する華やかなイラストを配置することで映画の概観を
 示し、その上で作者の「お気に入り」を部分スケッチ
 の連続として再構成したことで、いわば同人誌風の「コ
 ア」なファンの琴線にも触れられるよう編集している
 点が秀逸である。幅広い読者層と情熱滾る作者との対
 話が意図的に、かつ嫌味なく調和していることが作品
 全体の基調として存在している。ページをめくる毎に、
 一種の映画鑑賞日記を垣間見ているような親近感が得
 られ、ユニークな紙面となっているだろう。



教育機関：札幌市立大学 デザイン学部
 研究室：インターラクティブデザイン研究室
 指導教員：若林 尚樹
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：人と犬との共用食のための食品パッケージ
 学生氏名：山岸 小百合 (学部 4 年)

近年の日本では大規模な災害が増えており、その
 中で住民一人ひとりが災害に備える「自助」が求め
 られている。本研究では、非常時においても、人とペッ
 トが安心して食べることができる共用食（人もペッ
 トも食べることができる食品）のためのパッケージ
 デザインを提案する。コンパクトな備蓄性・収納性・
 衛生面などに着目し、日常でも災害時でも手軽に利
 用できる日常備蓄食となるような食事の方法やパッ
 ケージデザインを目指し、人とペットとの暮らしの
 中で無理のない食の自助を生み出すことを目的とす
 る。

災害発生～支援物資到着までの目安とされている
 災害直後 3 日間の食事をサポートできる分量・栄養
 素の食品とし、小型犬 (10kg 以下の犬) 飼育者が災
 害時における在宅避難生活の際に活用できるものを
 対象とする。飼い主とペットがどんな時・場所でも
 普段と「一緒」な暮らしができるようにというコン
 セプトのもと、「issy」 というブランドロゴとともに、
 ストック性・収納性・衛生面に着目し制作した。



教育機関：札幌市立大学 デザイン学部
 研究室：人間情報デザインコース デザインプロセス研究室
 指導教員：安齋 利典
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：道産材を活用した家庭用電気製品の提案
 学生氏名：川村 冴（学部 4 年）

地域材 / 道産材の活用の幅を広げることでさらなる利用促進につながると考え、新たな活用方法として“家庭用電気製品”への活用を提案する。家電に地域材 / 道産材を取り入れることで、活用の場を広げ、木が持つ温かみの特徴が生活に加わり、さらには循環型の資源である木を使うという啓発効果が期待できる。

木を身近に感じてもらうため、日常的に使用し、手に触れる機会が多いと考えられる「掃除機」を製作対象とした。また、使用する木材は、1.比較的に軽い 2.加工がしやすい 3.耐水性がある 4.狂いが少ない 5.手に入りやすいという要素を持つ木材とし、北海道産の「タモ」を選択した。

3D 切削機を用いてパーツごとに削り出して実寸大のモックアップを製作した。そして、その画像や使用シーン等を記載した製品パンフレットを用いて研究の目的を達成しているかを確かめる最終評価を行った。

結果として、好意的な評価を多くいただき、目的が達成できたと考える。



教育機関：滋賀県立大学
 研究室：人間文化学部 生活デザイン学科 徐研究室
 指導教員：徐慧
 教育成果：2021 年度卒業研究および制作
 タイトル：「日本における CSR 広告の企画プロセスの提案」
 学生氏名：小幡 悠矢（学部 4 年）

近年 CSR は、社会の持続可能な発展において重要な要素の一つであると考えられている。特に、2015 年に SDGs が掲げられてからは、企業に CSR を求める傾向が強くなっている。そんな背景もあり、現在では大企業を中心とした一部の企業が CSR 活動を行っている。しかし CSR の現時点の課題として、企画段階の理解不足が挙げられる。一般社団法人企業活力研究所が行なった調査では、SDGs の取り組みにおけるの課題点として、「社内での展開方法が未確定（47.4%）」等の回答が挙げられており、企画段階での理解不足が課題となっていることを読み取れる。以上のことから本研究では、企画段階での理解向上が CSR の普及に繋がると仮定した上で、現代の日本における CSR 広告の企画プロセスを考案し提案する。更に、考案したプロセスに基づいて企画した CSR 広告のアンケート調査を行い、どのような効果があるかを検証する。

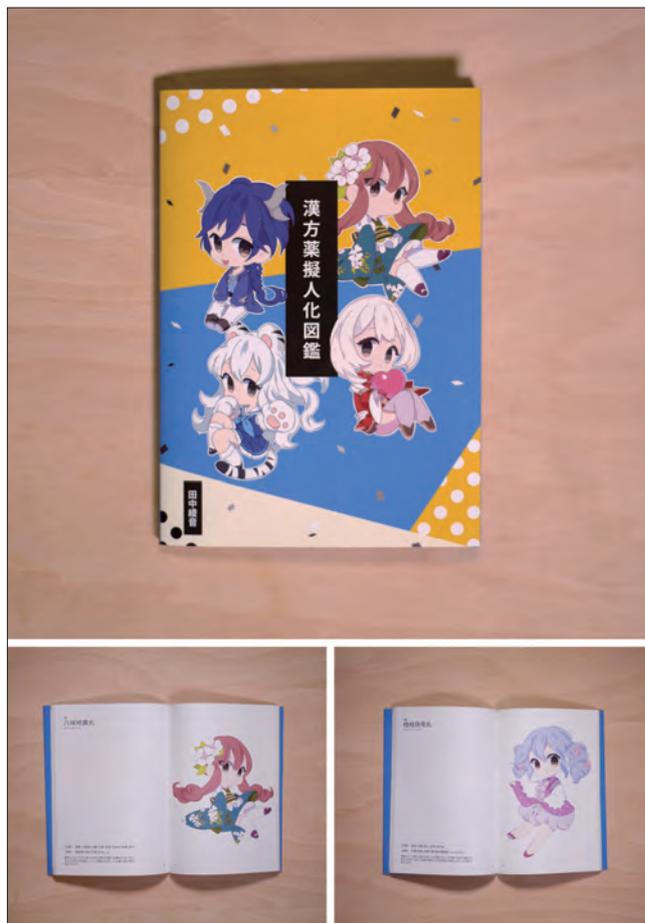
CSR 広告企画のプロセス



教育機関：静岡理科大学
 研究室：情報デザイン学科 藝術工学研究室
 指導教員：松田 崇
 教育成果：2021 年度卒業制作
 タイトル：漢方薬擬人化図鑑
 学生氏名：田中 綾音（学部 4 年）

本作は、漢方薬を擬人化して紹介するイラストレーションブックである。作者は日頃から漢方薬を飲んでいることから、漢方の魅力発信をテーマとすることにした。ターゲットのイメージは、漢方薬に馴染みの薄い若年層を想定。ターゲットが作者と同世代であることで、漢方薬に馴染みの薄い人達を作者の自分事としてイメージしやすくした。また、漢方薬は視覚的に魅力ある形態ではないため、漢方を擬人化した親しみやすいキャラクターに描くアイデアを採用。これにより、医薬品や高齢者層のイメージが強い漢方を身近なモノとして表現した。メディアは、イラストレーションの魅力を発揮するメディアとしてブックを選択。既存の雑誌や書籍を調査し、作者の感性に響くデザインを検討した。そこから、若年層に広まったライトノベル風のブックデザインで制作することに決定。ポップな印象で親しみやすい漢方擬人化図鑑に仕上げた。

漢方という、健康や医療といったイメージの強いモノを日常のファッションのような気軽さを醸し出すブックデザインに仕上げた本作は、高く評価できる。



教育機関：芝浦工業大学
 研究室：エモーショナルデザイン研究室
 指導教員：橋田 規子
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：高齢者が元気になる
 介護レクリエーション工作の提案
 学生氏名：望月 満裕（学部 4 年）

高齢化問題の対策として、健康寿命を延ばすことが重要視されている。老人福祉施設における対策のひとつとして、様々な「レクリエーション」が実施されており、コミュニケーションや脳機能、身体機能を活性化させる等の重要な役割を果たしている。しかし、介護職員の人手不足や、高齢者が興味を持って取り組んでくれる「レクリエーション」が提供できていない、といった課題がある。

本研究は、要介護 2 レベルまでの高齢者を対象に、「高齢者が元気になり、介護職員の手間がかからない介護レク工作の提案」を目的とする。また、研究体制は、株式会社マルアイとの産学連携プロジェクトとして行った。ケアマネジャーヒアリングと高齢者特性調査から、介護レク参加率の低い男性高齢者をターゲットに、江戸城をイメージしたパーパークラフト工作の提案をした。実証実験をした結果、知的な刺激を与え、達成感があり、介護レクとしてよい評価を得ることができた。しかし、難易度が高く、介護職員の補助が必要であった点では改善の余地がある。

今後は、説明書や細部の改良をおこない、さらに継続して楽しむための提供方法を検討する。



教育機関：女子美術大学 芸術学部
 研究室：デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
 指導教員：下田 倫子
 教育成果：2021 年度卒業制作
 タイトル：City Oasis – 日比谷公園再計画ー
 学生氏名：オウ ゲンイツ (学部 4 年)

東京都心部の緑の核となる皇居外苑に隣接した日比谷公園の再設計の提案である。

作者はこれまで、積極的かつ日常的な都市公園の利用と場所づくりの研究を進めてきた。本計画では、利用者タイプをオフィス街地区の就労者、近隣住民、観光者、公園スタッフと4つの分類に定めた。各タイプの利用者行動を一日のスケジュール毎に分析し、行動に応じた時間と場所を想定して、園内の緑と水景の中を緩やかな動線計画によって日々散策できるように空間を構成した。園内には、畑を併設したレストランやカフェ、図書館や子どもの遊び場、水上デッキやグリーンウォールによる憩いの場等、利用者の様々なニーズに応じた施設が配されている。

再設計された日比谷公園は、多忙な毎日を送る都市生活者が日常の中で、緑豊かな環境で散策を楽しみ、休息をとり、自分の好きな場所を探して快適な時間を過ごすことができる場を提供し、多様な公園利用者の生活に適応する都市のオアシスとなる。



教育機関：拓殖大学工学部デザイン学科
 研究室：感性インタラクション研究室
 指導教員：岡崎 章
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：罪悪感の解消・昇華ツール
 学生氏名：金澤 武 (学部 4 年)

抑うつ傾向と相関関係にある精神的罪悪感を軽減したり、あるいは負の相関関係にある関係維持のための罪悪感に昇華させたりするためのツールである。ユーザーは、まず罪悪感評価カードを用いて精神的罪悪感と関係維持のための罪悪感の比率を確かめ、それを本体の内側に差込んで外側から抜き取ることで罪悪感解消の疑似体験を行うことができる。

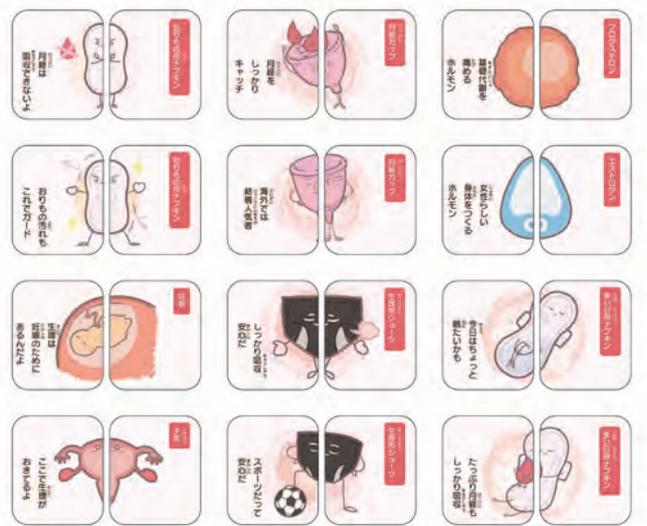
本体は、SPF材で積層し、正七角形の四辺からなっている。差込口は、ゴムウレタンを用いて摩擦を調整している。罪悪感評価カードは精神的罪悪感と関係維持のための罪悪感に分かれており、前者の裏側は赤、後者は緑色である。カードを差し込んだ後、ツールを反転させて、どちらの色の比率が高いかによって解消すべき精神的罪悪感の割合を直感的に知ることができる。

本ツールは、罪悪感解消のイメージである「何かを外れるイメージ」「内側から外側に広がるイメージ」というデザイン要素を組み込んでいる。



教育機関：拓殖大学
 研究室：コミュニティデザイン研究室
 指導教員：工藤 芳彰
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：ジェンダー理解促進を支援する「生理」
 学習テーブルゲーム『アンネの絵合わせ』
 学生氏名：西森 咲（学部 4 年）

ジェンダー理解促進を支援するため、男女間の知識差が大きな「生理」を題材に、学習用テーブルゲーム『アンネのえあわせ』を提案した。2～6人で遊ぶ、6歳以上を対象とした生理学習の支援、およびジェンダー理解のためのワークショップに利用できる。縦60×横50×厚さ約2mmの厚紙製タイル42枚で構成され、2枚1組の表面にはナプキンやタンポン、月経カップなどの生理に関するイラストと、その説明文が表示される。ワークショップでは、神経衰弱の要領で絵合わせし、揃ったペアタイル上の説明文を読み上げ、グループ内で意見交換する。親しみやすさの演出と、類似するイラストの判別性を高めるため、生理用品と子宮については顔を付加し、キャラクター化している。表情は、製品の特徴や使用時の身体の症状を基にしている。小学校の養護教諭から、通常の生理学習や修学旅行前の説明などで利用してみたいとのコメントを得ることができた。



教育機関：拓殖大学 大学院 工学研究科
 研究室：室内設計研究室
 指導教員：白石 照美
 教育成果：2021 年度修士研究
 タイトル：タケを主材とした転倒ダメージ軽減家具の
 開発
 学生氏名：遠藤 和磨（修士 2 年）

家具自体のもつ減災要素として家具転倒時の身体的衝撃に着目し、これを軽減するデザイン要素を明らかにすることを目的として、タケを主材とした転倒ダメージ軽減家具の開発を行った。加速度センサーを用いた転倒実験により、軽量、低重心であることに加え、部材強度が十分な場合では弾性を有する構造により家具転倒時の身体的衝撃を軽減できることが明らかになった。また、一定の条件下では衝突面に対策を施すことで衝撃を軽減できる可能性が示唆された。

これらの結果をもとにタケ緩衝フレームシェルフを制作した。部材面積が小さく軽量で、構造全体に弾性を有するフレーム構造とし、タケ集成材を主材とすることで部材強度と弾性を両立している。さらに、転倒時の衝撃対策として、シェルフ正面および背面にはタケ集成材による緩衝フレームを配し、天板および棚板端面と支柱部材を二重構造とした。底板には厚さ34mmのタケ集成材を用い、重心を下げている。



教育機関：拓殖大学 工学部 デザイン学科
 研究室：シビックデザイン
 指導教員：永見 豊
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：地域の特徴を活かした
 柚子ケーキのパッケージデザイン
 学生氏名：宍戸 亜優（学部 4 年）

拓殖大学では学生が主体となって山梨県富士川町のまちおこしに参加しており、特産品である柚子を活用した商品開発に取り組んだ。お菓子、飲み物、日用品など幅広く新商品を試作し、地域関係者との協議により柚子ケーキの商品化が決まった。

私はパッケージデザインを担当し、デザイン要素と印象の関係を把握し、若い女性向けに「現代的」「大胆」「上品」の印象が生じるロゴやイラスト、パッケージ形状をデザインした。上品なお土産のイメージを確立させるため「宝石」をコンセプトとして、地域の特徴である「ダイヤモンド富士」「日出づる里」「穂積の柚子」をデザインに取り入れた。商品ロゴは太陽と柚子をモチーフにダイヤのカット線を施し、包装についてはシンプルなお土産と日の出をイメージした小箱、自然かつ宝石のイラストで仕上げた大箱の3種とした。

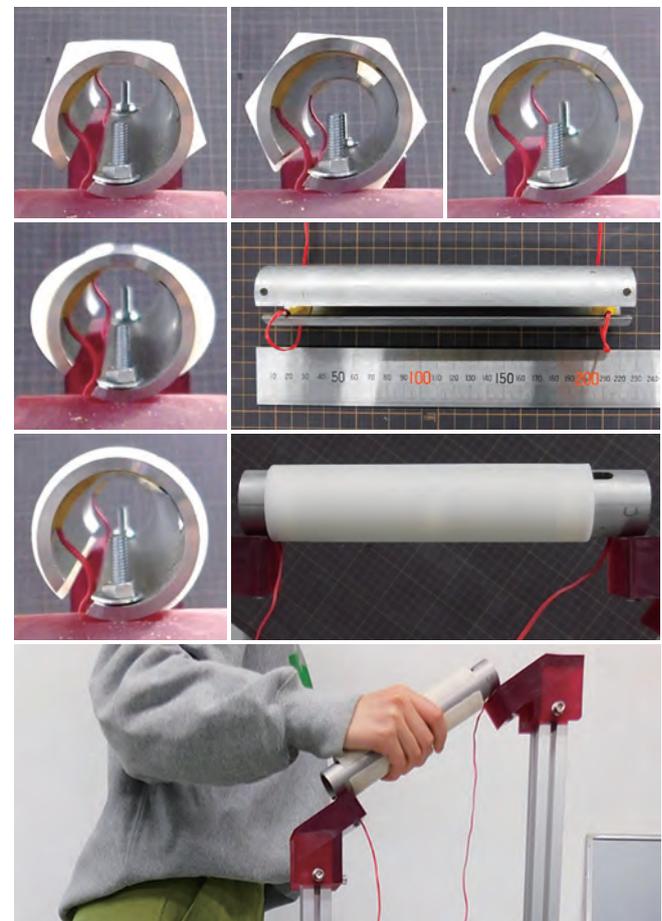
今後は本デザインを元に商品化が予定されており、より多くの方に柚子の魅力や富士川町の美しさが届くこと祈る。



教育機関：拓殖大学 工学部 デザイン学科
 研究室：ユーザエクスペリエンスデザイン研究室
 指導教員：森岡 大輔
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：力学的負荷に基づいた階段手すり形状の提案
 学生氏名：成田 瑠七（学部 4 年）

わが国では平成 30 年にユニバーサル社会実現推進法が制定され、ユニバーサルデザイン（UD）が活用されるようになった。手すりも UD の対象とされることがあり、波型手すりなどが開発されている。八後藤らは従来の直線型と波形手すりの評価をおこなっているが、波型手すりの評価は 2 割程度にとどまっていると報告している。またこれらの手すりの断面形状はいずれも円形であり、その他の形状について調査した研究は多くない。本研究では既存の手すりに代わる新たな階段用手すり形状の開発を目的に、力学的負荷計測可能な実験装置を製作し、6 種類の手すりを用いて階段登り実験をおこなった。

実験の結果、各被験者の手すり把持で発生する電圧の積分値は円形手すりでは約 0.50 ms・V、五角形で約 0.43 ms・V、六角形で約 0.45 ms・V、八角形で 0.50 ms・V と円形手すりの把持機能は他の手すりより高く、また多角形では頂点の数が多くなるほど円形手すりの結果に近づくことを明らかにした。その一方で、本装置では握力以外の荷重も同時に計測しているため、今後は握力のみ計測可能な装置への改良を予定している。



教育機関：拓殖大学 工学部 デザイン学科
 研究室：用品設計研究室
 指導教員：阿部 眞理
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：和紙および和紙布を用いたウエディング
 ドレスのデザイン
 学生氏名：小山 華奈 (学部 4 年)



和紙は生産量が年々減少傾向にあるが、植物材を原料とする和紙は、持続可能な社会に対して適切な材料である。

本研究では、和紙を現代生活に再度取り入れる方法を見出すことを目的とし、ウエディングドレスへ応用した。①和紙の素材感に変化を持たせる、②和紙の性質を活かす、③和紙の魅力を伝える、以上をウエディングドレスへ応用する際の要素とし、デザインした。

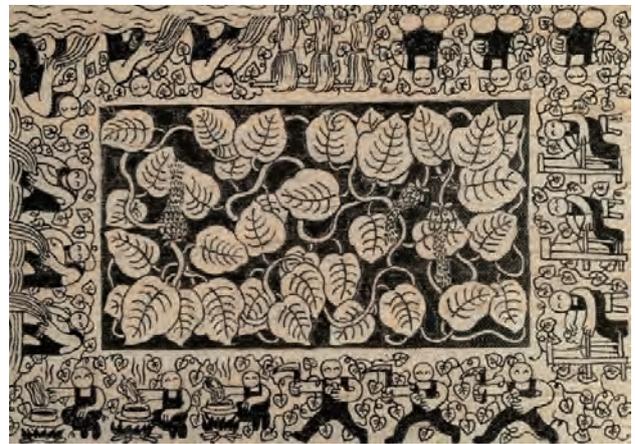
ウエディングドレスは、今年度の人気スタイルを参考とするとともに、折り形・水引・水切り・型染等、和紙を用いた伝統的な利用および加工法を取り入れて、実物大2着、1/5 サイズ7着を制作した (掲載は6種類)。実物大のドレスは、折り形を身頃半分に取り入れたデザイン (図下左)、和紙を水切りし、繊維を活かしながら一部を継ぎ接ぎしたデザイン (図下右) である。

ウエディングドレスという媒体に、和紙に見られる伝統的要素とドレススタイルのトレンドを融合させることによって、和紙の活用方法の一提案となったと考える。



教育機関：多摩美術大学 大学院美術研究科 博士前期課程
 研究室：染織文化特殊研究室
 指導教員：深津 裕子
 教育成果：2021 年度産官学共同研究
 タイトル：掛川葛布イノベーション-葛布に描く-
 学生氏名：野口 裕香、CHUPANICH Pimpakai、三宅 葵
 (博士前期 2 年)

「掛川葛布イノベーション-葛布に描く-」は、伝統的な葛布のための新しい普及活動を実施した、静岡県掛川市役所・葛布活用コンソーシアム・小崎葛布工芸・掛川手織葛布組合との協働プロジェクトである。大学院生は伝統的な裨用葛布、環境問題に配慮して開発され現在では名刺に活用されている葛を含む再生紙の素材感を活かしたアート&デザイン作品を制作した。葛布の製造工程や歴史的背景を学びながら、自己の表現手法と「葛布」という伝統的で個性の強い素材を融合させるために、大学院生らは葛布と対話しながら試行錯誤を繰り返し、独創的な表現を行なった。野口 (上) は葛布の製造工程をユーモアあふれるイメージで墨描きし、CHUPANICH (左下) は出身地であるタイと日本の文化の融合をテーマにエスニック文様を印刷し、三宅 (右下) はシルクスクリーンによる擦り重ねで生まれる有機的な世界観をデザインした。これら若い世代のアート&デザインの思考と掛川葛布がコラボレートした作品は2022年1-2月に掛川市役所で展示し、葛布の新たな可能性を提示した。



《葛布のつくり方》野口 裕香



《エスニックスタイルの布》CHUPANICH Pimpakai



《Pile up 2》三宅 葵

教育機関：筑波技術大学
 研究室：産業技術学部 産業情報学科 情報科学専攻
 指導教員：生田目 美紀
 教育成果：2021 年度情報科学特別研究
 タイトル：手話による博物館の展示観賞支援
 学生氏名：大石 周（学部 4 年）

聴覚障害に対応した『展示観賞支援』が求められている一方で、国内の博物館では、手話言語という観点からの情報アクセシビリティが進展していない。そこで、実際に手話による展示観賞支援を行う際に、どのような情報提示方法が理解を促すのかについて、4 種類の動画（手話・手話＋字幕・手話＋補助情報・手話＋字幕・補助情報）を作成し調査を行った。その結果「手話のみよりも補助情報をつける」「字幕よりも補助情報をつける」場合に理解度が高くなることがわかった ($p < 0.01$)。用いる手話は「日本手話を望む 11%」「日本語対応手話を望む 33%」「どちらでも構わない 56%」という結果になった。また、聴覚障害者・関係聴者共に約 6 割の人から、手話ができる聴覚障害者に手話ガイドを担当してもらいたいと回答を得た。

ミュージアムパーク茨城自然博物館の恐竜ジオラマ展示を取り上げ、聴覚障害学生を対象とした実践実験を行った(2021.12.10)。当事者手話ガイドは、タブレット端末に補助情報を提示しながら解説を行った。その結果この様な『展示観賞支援』は「わかりやすい・正確・満足・楽しい」という評価につながる事がわかった。※ミュージアムパーク茨城自然博物館のご協力に感謝します。



図 1：情報提示方法検討用動画



図 2：鑑賞支援の実践実験の様子
 (手話ガイドとタブレット端末に提示した補助情報)

教育機関：筑波大学 大学院 人間総合科学学術院
 研究室：人間総合科学研究群デザイン学学位プログラム
 指導教員：山本 早里
 教育成果：2021 年度修了制作
 タイトル：Color Overlap Series with Acrylic Blocks
 学生氏名：細井 那月（博士前期課程 2 年）

本制作は「透過素材を活用した色の重なり」をテーマに、A3 サイズの写真 11 点で展開したアート組作品である。プラスチック等の透過素材の性質、積層等の色の重なり的手法、光源を取り入れた場合という 3 つの観点による先行作品の事例研究を踏まえ、色の重なり的手法と自然光の効果との組み合わせによって制作を進めた。

具体的には、カッティングシートを接着したアクリルブロックの色と、そこから映し出される色光という 2 種類の色の重なりを組み合わせ、それぞれ多様な角度から撮影した。2 種類の色の重なり対比や立体感に対する錯覚など、一見ただけでは色の重なり合う仕組みが分からない不思議さや、アクリルブロックの実物単体の状態からは想像できない意外性のあるバリエーションを提示することができた。

本制作の造形的特徴及び手法は、ディスプレイやビジュアルデザイン、知育玩具、芸術の分野で展開することができると思われる。



図 1 筑波大学総合研究棟 D1 階オープンギャラリーでの展示風景

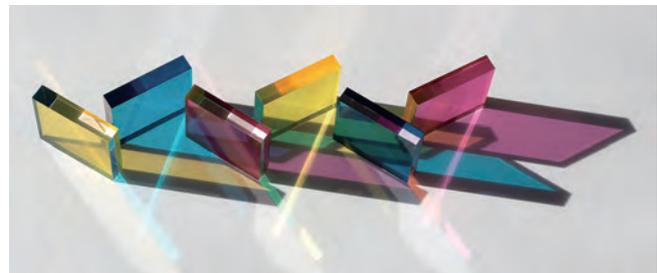


図 2 50×50×10mmのアクリルブロック 6 点を用いた、自然光下での構成



図 3 撮影で使用したアクリルブロックの一部

教育機関：東京学芸大学
 研究室：環境・プロダクトデザイン研究室
 指導教員：鉄矢 悦朗
 教育成果：2021 年度卒業研究・制作
 タイトル：てまひまとおもい
 学生氏名：椎谷 咲歩（学部 4 年）

コロナ禍で人とのつながりが希薄化する中、デザインによって、人をつなげていきたいという思いから生まれた卒業研究（実践提案＋絵本）である。食べる人を思い、手間暇かけて一つひとつ丁寧に作っていた学園坂タウンキッチンの品々は、美味しく、「作ってくれてありがとう」という気持ちが生まれたそうだ。この気持ちを、作り手に伝えたいとの思いを手掛かりに卒業研究をスタートさせた。

デザイン研究になるかならないか不安であっても、動かなければ何も獲得できない。椎谷は、得意な絵で感謝の気持ちを伝える試みから始めた。受け取った側の予想以上の反応があり、気持ちが相手に伝わる嬉しさが研究の推進力となった。子どもたちにも近似した体験をするイベント（買って食べ、美味しかった気持ちを絵に描き、お店の方に渡す）を開催した。子どもたちの気持ちが作品を通して届けられた。この活動が、気持ちを伝えるデザインの実践的提案である。さらに、12 年間、椎谷のお弁当を作ってくれたという亡き祖母にありがとうという気持ちを伝える絵本『おべんとう』を制作（製本含め）した。実感のあるデザイン提案となっている。



お礼のイラスト抜粋

祖母へのありがとうを込めた絵本



イベントで気持ちを絵で手渡す様子

教育機関：東京造形大学
 研究室：インダストリアルデザイン専攻領域
 指導教員：井関 大介
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：何もしない時間を作るための
 プロダクトの研究
 学生氏名：横山 賢志（学部 4 年）

現在、行動や思考を促進し、何かさせ続けてしまうようなプロダクトで溢れている。反対に何もしないことを促進するプロダクトもあるのではないかと考え研究を始めた。このプロダクトは水滴が落下し続けることでユーザーが何もしない時間を作るプロダクトである。人は自然現象を見ると心が安らいだり、美しいと感じ、なんとなく見てしまう。そういった要素を取り入れるため自然現象を取扱い、その中でも本研究では水滴に焦点を当てプロダクトを制作した。自然現象において人が見てしまう要素としてランダム性と一定のリズムがあると考え、水滴が落下し続けるというプロダクトに加え、水滴が落ちる位置をランダムにした。機能として水滴が落下するとそれをセンシングしライトが緩やかに点灯する。また人との距離によって水滴の落下速度とライトの点灯する速度を変化させるわずかなインタラクションを取り入れることで人とプロダクトに人と自然に近い関係性を作り出すことを目指した。



教育機関：東京都立大学 システムデザイン学部
 研究室：ネットワークデザインスタジオ
 指導教員：杉本 達應
 教育成果：2021 年度卒業制作
 タイトル：「はとめふれんず」
 子どもの創造力を養うためのキャラクター
 作成 Web アプリケーションの開発
 学生氏名：及川 純奈（学部 4 年）

「創造力」が社会や親から望まれている一方で、子どもたちのデジタルデバイスの利用は受動的にとどまっている。このような背景をふまえ、子どもたちにとって身近なデジタルデバイスを能動的に利用し、創造力を養ってもらうことを目的として、キャラクター作成 Web アプリケーション「はとめふれんず」を開発した。

「はとめふれんず」は、キャラクターとアニメーションを作成できる Web アプリケーションである。ユーザーは、丸・三角・四角の図形を組み合わせることでキャラクターを作ることができる。図形同士が重なっている部分は、関節とみなされ、回転の中心点となる「ハトメ」を自動的に作成される。「ハトメ」を中心に図形が回転することで、キャラクターのポーズを変えることができる。

図形を組み合わせ配置することで、「ハトメ」を使ったアニメーション作成を考えることができる。このように独自のキャラクター作成を通して創造力を養うことを目指した。



教育機関：東洋英和女学院大学
 研究室：学芸員養成課程
 指導教員：町田 小織
 教育成果：2021 年度「博物館教育論」
 タイトル：ちひろ美術館・東京を想定したワークショップ・
 デザインと実践—学修成果としての主体的・
 対話的で深い学び—
 学生氏名：小谷 結子（学部 3 年）、
 難波 有里彩・小池 華乃子（学部 2 年）

「博物館教育論」では、学生たちが選んだ博物館を想定して、教育普及活動の企画を立案し、授業内で他の受講者を対象に実践（テスト）まで行う。2021 年度後期の授業では、当該科目が終了しても、学生たちの学びが持続し、港区立麻布子ども中高生プラザへ企画書を提出し、小学生に対話型鑑賞を試みるに至った。それは、授業での最終成果物であるワークショップのライドやワークシートについて、同館の学芸員が丁寧に講評してくれた効果といえる。それにより、学修意欲が継続し、3月31日にリアルな現場で子どもたちに実験してみるという挑戦に帰結した。コトのデザイン（教員による授業）の中にコトのデザイン（学生による小学生へのアウトリーチ／対話のための場づくり）が生まれた、入れ子構造のような成果ともいえよう。ワークショップ時も、ファシリテーターである学生側が小学生から学ぶことも多く、「対面でやって正解だった」と振り返っている。結果として、博学連携や地域貢献にも繋がった活動である。



教育機関：常磐大学 人間科学部コミュニケーション学科
 研究室：メディア映像
 指導教員：小佐原 孝幸
 教育成果：2021 年度卒業制作
 タイトル：水戸さんぽ
 学生氏名：石川 莉名（学部 4 年）



《水戸さんぽ》アニメーション 7分45秒

《水戸さんぽ》は水戸市の観光振興を目的とした7分45秒のアニメーション作品である。「水戸市第6次総合計画—みと魅（さきがけ）プラン—」の中で、水戸市は、歴史・文化の魅力の向上、戦略的観光PRを目的とした「魅力・活力アッププロジェクト」を定めている。また昨今、地域プロモーションにおいて、アニメ文化の一般化に伴いアニメーションが用いられる事例は増えてきている。本作品はそれらの背景を踏まえた上で制作を行った。キャラクターの造形に関して初期は2人の女の子が観光地を巡るという構成であった。しかし同年代の女の子は絵として差別化が難しく、そこにアニメーション的表現が加わると、視聴者の混乱を生む危惧があった。わかりやすい作品を目指し、修正を重ねていった結果、最終的には女の子と水戸市の鳥（ハクシキレイ）の組み合わせとなった。

完成したアニメーション作品は水戸観光コンベンション協会から高い評価を得て、実際に観光PR映像として採用されることとなり、2022年4月より偕楽園のデジタルサイネージにて放映が開始された。



主人公のエリナ(左)とナビ役のハクちゃん(右)のキャラクターデザイン

教育機関：常葉大学 造形学部
 研究室：村井 貴デザイン研究室
 指導教員：村井 貴
 教育成果：2021 年度卒業制作「生理に対する理解増進」
 タイトル：知っておきたいアレのこと
 ～生理における知識と理解～
 学生氏名：杉山 弥鈴（学部 4 年）

本作品は常葉大学造形学部4年次における卒業制作である。生理の正しい知識を身につけ、一人でも多くの方が自分の身体を大切にしたり、相手への思いやりの気持ちを持ったりするようなきっかけづくりを目的とし、ブックレットを制作した。

東日本大震災の際、ある避難所ではナプキンの配布が一人一枚だったという。2019年に大阪で開催されたG20では鉄道会社のテロ対策でサニタリーボックスが撤去される出来事があった。LGBTといった言葉をよく見聞きするようになり、多様な性の認知が広がる昨今、「生理」は性別を問わず身につけるべき知識ではないかと考え、デザインプロセスをSNSで発信しながら、ブックレットを関係各所に配布していった。また、ウェブで広く公開する目的でAmazon Kindleの配信も行った。

本作品は2022年2月9日(水)発行の静岡新聞夕刊3面の記事「生理に知識と思いやり 性別問わず理解を 常葉大・杉山さんが冊子作成」と2022年3月8日(火)のNHK静岡放送局「たっぷり静岡」の特集「生理の貧困 継続的な支援を」にて取り上げられた。



教育機関：日本大学 芸術学部
 研究室：デザイン学科 笠井研究室
 指導教員：笠井 則幸
 教育成果：2021 年度卒業制作
 タイトル：食物館—紙紡—
 学生氏名：上里 くるみ（学部 4 年）

本研究は「紙」にフォーカスを当てた作品である。紙を料理の食材として考え、食材を組み合わせることで新たな料理を生み出す、人間の知恵を具現化したものである。本来和紙を作る際には、コウゾを水に溶かしそこから漉く作業をするが、この作品は食材とコウゾを直接、混ぜることで、食物の持つ色や質感をダイレクトに紙に定着させた。それらの食材紙を様々用意し、縫い合わせることで、あらたな形が見えてくる。それはまるで人間が食材を探し、それを組み合わせることで新たな味覚体験を探す行為と同じように見える。ただそこにある作品たちは、料理というよりはファッションの一片を見ているような錯覚に陥る。色の組み合わせ、ステッチに入れ方が、そう見せているのではなく、本来、人間が持つ文化的な営みは衣食ともにあることに、この作品の前で気付かされる。上里は、これらの作品を 100 点作り、それぞれの作品にタイトルをつけている。それは全体の作品の文脈を切り取る言葉が添えられており、作品の主旨を新たなアプローチで引き出しているところも見せ方の秀逸なところである。



教育機関：八戸工業大学
 研究室：感性デザイン学部 高屋研究室
 指導教員：高屋 喜久子
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：青森のおいしいもの AtoZ
 —おいしさビジュアル化の研究—
 学生氏名：貝塚 彩乃（学部 4 年）

青森県のおいしいものを頭文字 A から Z まで 26 項目取り上げて、目で見て味わえる食図鑑を制作した。A アピオス、B バラ焼き、県内特産食材やご当地グルメ、郷土料理などを、独自のイラスト制作により表現し、瑞々しさや料理のテリ・ツヤ、湯気など細部にこだわり改良を重ねた。完成したイラスト作品は写真とは異なるシズル感に溢れ、読者の想像を掻き立てるものとなった。発祥の地や生産地を地図で示し参考 Web を掲載、視覚に訴えてページをめくる毎にそれぞれの味を楽しんでほしいとの趣旨を貫いた。

卒業研究展では「美味しそう！」「この本欲しい！」などの声が多数寄せられ「おいしさビジュアル化の研究」に成功したと言えよう。地元テレビ局の協力を得て、言葉選びや食文化、郷土料理の由来などを調査しながら研究を進められたことは幸いであった。さまざまなコンテンツに展開し青森のおいしいもの図鑑として、魅力の情報発信に貢献することを期待したい。



教育機関：前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科
 研究室：プロダクトデザイン研究室
 指導教員：江本 間夫
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：「配膳を楽しむ、食事を楽しむ」
 幼児と大人がともに使う食器のデザイン
 学生氏名：石川 千夏（学部 4 年）

幼児用食器の研究として、幼児が居る家庭を対象に食事時の食器の写真の提供をお願いした。明らかになったことは、ランチプレートと称される主菜や副菜など複数の料理を 1 枚の皿に盛りつけできるように作られた樹脂製の皿が多く、多くの家庭で使用されていることであった。幼児用ランチプレートは、子育て中の家庭にとって利便性の高い製品である。幼児がスプーンを使用して食べやすいように掬い取りやすいように形状が工夫されており、幼児らしさを強調した色や柄が採用されている。しかし、このようなランチプレートは大人が使用する食器とは異なった幼児のための特殊な存在であり幼児期の食事経験として必ずしも適切であるとは言えないであろう。

幼児用食器としての機能性、利便性を満たしながら、大人も共に使用することを目的として今回のデザイン提案は行われた。完成した「しずく型」は、幼児にとっては食器を並べることがパズル感覚で楽しさを感じさせ、大人の使用にも耐えうる美しい形状である。興味深く完成度の高いデザイン提案となった。



教育機関：宮城大学 事業構想学群
 研究室：価値創造デザイン学類 伊藤研究室
 指導教員：伊藤 真市
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：ぬいぐるみ型非常持ち出し袋の提案と制作—
 ぬいぐるみの魅力と実用性の両立—
 学生氏名：櫻井 緋里（学部 4 年）

災害時に非常持ち出し袋が見つけれなかったという経験者は数多い。日常不要なものであるため、置き場所を忘れて、いつの間にか追いやられてしまうことが原因である。本研究は、それらの問題解決のひとつとして、ぬいぐるみが生活空間で目の届くところに存在していることに着目し、ぬいぐるみ型非常持ち出し袋として提案制作するものである。

研究フレームとしては、(1) ぬいぐるみに関する歴史、特徴や魅力の考察 (2) 素材研究 (3) 非常持ち出し袋の現状調査 (4) ぬいぐるみ制作、リュック制作 (5) ぬいぐるみ型非常持ち出し袋の制作 (6) アンケート等によるフィードバック (7) 広めるための展開考察、、、に沿ってすすめた。

愛玩物と実用性の両方を兼ねそなえた製作物の特徴としては、背中あわせでなくおんぶ型にしたこと、通常置いたときに腹ばいの姿勢で紐が隠れるためリュックに見えないこと、等により、心の癒やしをも与えることがあげられる。



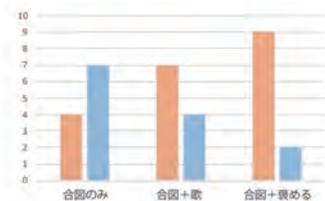
教育機関：武蔵野大学 工学部 建築デザイン学科
 研究室：太田裕通研究室
 指導教員：太田 裕通
 教育成果：2021 年度卒業設計
 タイトル：日常の先へ
 学生氏名：島 香奈恵（学部 4 年）

この計画は、湘南は茅ヶ崎漁港地区及びサザンビーチ周辺を対象に、ウィズコロナ下での首都圏郊外部における働き方と沿岸部の防災拠点のあり方をテーマとし、地形と連関する“生活”の場を構想したものである。島さんは現地での調査を通して、茅ヶ崎に近年移住者が増え続けている一方で定住するきっかけとなる繋がりが生まれづらいこと、ビーチはサーファーや釣り人は勿論、地元住民の生活の舞台として使われていること等を実感するようになる。それらを踏まえて、地元の風景として馴染みのある漁港エリア（A 地区）と商業施設が並ぶ（B 地区）、敷地の半分が未活用である（C 地区）を一体的に捉え、子ども大人も“Co Working”する生活の場として再編した。海への抜けが感じられ、建物を貫き廊下にも家具にもなる壁軸の挿入によって、屋外空間は緩やかに繋がり、アクティビティ同士の豊かな関係性を創出している。また丁寧に地形の高低差を再現し、電柱など細部まで作り込まれた縮尺 1/200 模型は、地域への愛を感じると同時に、地域の再評価としての表現として非常に説得力があった。

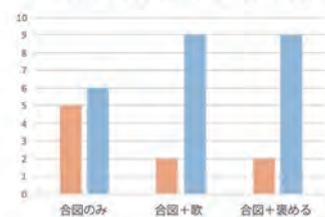


教育機関：明星大学 デザイン学部 デザイン学科
 研究室：感性デザイン学研究室
 指導教員：吉岡 聖美
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：幼児の片付け行動を促す要素とおもちゃ箱
 学生氏名：花輪 美歩（学部 4 年）

片付け行動は早期に身につけるべき日々の習慣行動であり、独立歩行初期の1歳児前後から保育者を真似て始まるとされる。本研究では、片付けを促す要素として、片付け時の合図・歌・声掛けといった保育者の働きかけ、および、おもちゃ箱について、異なる条件下での1～2歳児の片付け行動と表情を観察した。その結果、合図のみの時よりも歌や褒める要素を加えた方が片付ける幼児が増加し、真顔で片付けに取り組んでいる様子がみられた。幼児の片付け行動を習慣づける働きかけとして、合図だけではなく、片付けを促す歌や片付け行動を褒める声掛けの要素を付加する保育が有効であると考えられる。おもちゃ箱に関する調査では、通常使用しているプラスチック製のおもちゃ箱と手作りのおもちゃ箱とを比較し、ぬいぐるみを取り付けたカバーを被せておもちゃのように見せた手作りのおもちゃ箱を使用すると、片付け行動が促される様子がみられた。カバーに取り付けたぬいぐるみを一定期間で取り替えるなど、長期間使用しても効果が継続するような手作りおもちゃ箱も有効と考えられる。



保育者の働きかけ要素の違いと片付け行動の観察



保育者の働きかけ要素の違いと表情変化の観察



空き缶にぬいぐるみを取り付けたカバーを被せておもちゃのように見せた手作りのおもちゃ箱

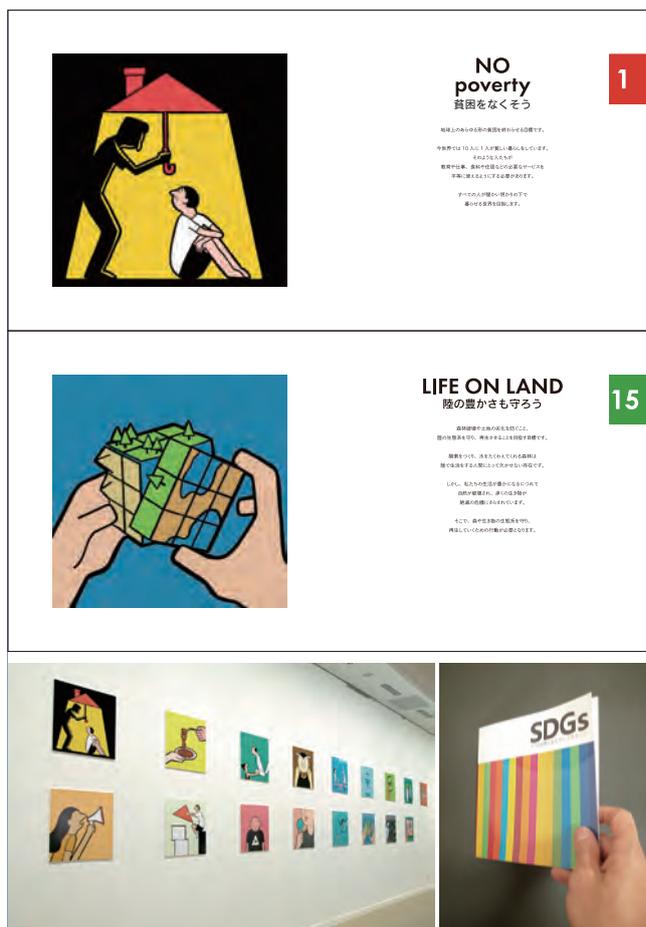
教育機関：山口大学 教育学部 美術教育選修
 研究室：木工芸・デザイン研究室
 指導教員：平川 和明
 教育成果：2021 年度卒業研究
 タイトル：SDGs-17 の目標と私たちにできること -
 学生氏名：野口 莉子(学部 4年)

世界規模でもっとも注目を集めている取り組みの1つに SDGs がある。近年、SDGs はメディアに取り上げられる頻度も高くなり、さらにコロナ禍を経て急速に社会に浸透してきている。しかしながら、この取り組みを個々が行動に移すには、更なる認知度の向上が必要である。

そこで、作者は「全ての人に寄り添うビジュアルデザインーSDGsの認知に向けてー」という研究テーマで、SDGsの17項目の目標をイラストレーションによって表現し、ピクチャーブック(サイズW150×H150,41ページ)としてまとめた。「ポップとキャッチー」というテーマで内容を可視化して分かりやすく、親しみを持たせることで、誰もが平等に理解できると考えた。

本作品は、見る側の洞察力を引き出す常識にとられない豊かな表現力で描かれており、そこに独自の世界観とユーモアを感じる。視覚から興味を与え、内容の理解を促し、子どもから大人まで幅広い世代に向けた一冊となっている。

作品展示では、イラストのパネル制作も行い、特に教育機関からの反響が大きかった。



教育機関：横浜美術大学 美術学部 美術・デザイン学科
 研究室：プロダクトデザイン専攻
 指導教員：辻 康介 山路 康文(非会員)
 教育成果：2021 年度卒業制作
 タイトル：「Hitotose」
 学生氏名：新井 天地(学部 4年)

このプロダクトのモチーフとなった植物は、はなみずき。よく見かける身近な植物です。屋内に自然界の「季節の移り変わり」を持ち込み、インタラクティブに接する3つの特徴が、私たちを楽しませ癒します。

1つ目の特徴は革という素材であり、独特な張りやステッチの様子は、接する者を惹きつけます。同じく革でつくられた花や葉は、簡単に付け替えることができます。花や葉を付け替える行為がインタラクティブであり魅力的です。2つ目は「フック」として与えられた機能があります。作者は家の鍵を忘れて出かけることが多く、このプロダクトを通じて解決したいという想いがありました。3つ目は間接照明としての役割です。このプロダクトは玄関近くに設置されるイメージで制作され、玄関先での忘れ物や屋外の季節感に優しく気づかせてくれます。

複数の要素を持ちながら強引さや無理を感じさせず、自然と接することができ、時間の経過とともに愛着が湧いてくる。このような、ささやかな楽しみと癒しのあるプロダクトが必要を増してくることを予感させる提案です。



日本デザイン学会 企画委員会 支部企画 教育成果集 2021

編集 平松早苗（第2支部支部長）、橋田規子（副支部長）

デザイン 森山貴之（横浜美術大学）

発行日 2022年6月

本部事務局 〒167-0042 東京都杉並区西荻北 3-21-15 ベルフォート西荻 703

TEL 03-3301-9318 FAX 03-3301-9319

支部事務局 〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町 14-11 日本橋桃林堂ビル 5階
（同）ars 設景気付